

第36号

2006年7月

発行元：社団法人 家畜改良事業団 家畜バイテクセンター
URL：http://liaj.lin.go.jp/(http://liaj.or.jp/ivf/)

contents

- おじゃまレポート 鹿児島県酪農業協同組合連合会
- ～ 第8回東京体外受精卵産子枝肉共励会
- おじゃまレポート 岩手県葛巻町



体外受精技術による付加価値の拡充

平成17年度は全国的に生乳需給の緩和状態が続き、乳価は下がり、酪農経営にとって環境は厳しさを増しました。しかも、今年度に入っても好転することは予測できず、予断を許さない状況が続いています。このような状況の中で、体外受精技術を利用した取り組みが各地で広がりを見せています。生まれる子牛の品種は異なりますが、この技術を利用した東西2つの団体の取り組みを紹介いたします。

乳用種性判別体外受精卵を利用した後継牛の生産

鹿児島県酪農業協同組合連合会では、鹿児島県の気候・風土に調和し、各農家の牛群に適した能力・体型を兼ね備えた優秀な血統を後代に残すため、更新する登録牛から登録可能体外受精卵を生産して雌子牛を確実に作る取り組みが続けられています。

鹿児島県カウビーフ処理センターへ出荷された雌牛から卵巣を採取し、家畜バイテクセンターで体外受精卵を

生産して性判別を行い、雌と判定した受精卵のみを鹿児島へ空輸します。現地の移植スタッフにより、的確な移植が行われ、雌牛更新農家で当該雌牛の子孫を生産する方式です。

平成18年1月27日に県内第1号となるホルスタイン種雌子牛が誕生し、2月3日には第2号子牛が誕生しました。性を判別した乳用種体外受精卵による子牛は九州では初めて（試験を除く）です。



出水市 橋口智章さん

親牛は気に入った牛でしたが、一産しかできなかったので性判別体外受精卵の生産と移植に取り組みました。

思った以上に良い子牛が生まれ、来年の県共進会への出品が今から楽しみです。今後も気に入った牛を更新する場合は、利用していきたいと思いません。どうしても血統を残したい牛がいる酪農家には、是非奨めたいです。



霧島市 最勝寺秀美さん

親牛は産後調子が悪くなり更新に向けましたが、体型・乳量共に良く、子を残したかった血統でした。元気のいい子が生まれました。育成から我が家にいると、その牛の性格がわかるため、当牧場では牛群内から後継牛を残しています。しかし、昨年は雌産子が少なくて困っていましたが、今回は性判別されその心配がありませんでした。

【初出品】

横浜ビーフ推進協議会の(有)平本畜産 「安福165の9」産子が 最優秀賞受賞!

7月13～14日、第8回東京体外受精卵産子枝肉共励会が、東京都中央卸売市場食肉市場で開催されました(主催:財団法人興農会、協賛:東京食肉市場株式会社、社団法人家畜改良事業団)。今回は12県21団体から合計56頭の出品がありました(去勢41頭、牝15頭)。

最優秀賞は、横浜ビーフ推進協議会(神奈川県横浜市)の(有)平本畜産・平本政和さん出品による「安福165の9」産子が受賞し、枝肉単価3,004円で競り落とされました。今回出品された56頭中、18頭(32%)が5等級に、23頭(41%)が4等級に格付けされ、上物率は73%となりました。

褒賞授与式において、主催者である財団法人興農会の海老澤理事長は、「7月になると焼肉需要で牛肉の取引が活発になるのですが、最近の市況動向は必ずしも好調ではない様子です。今回の共励会の成績全体を見ると、前回に比べて販売金額は1万円以上高くなりましたが、肉質の改善にはまだ余地があるように見受けられます。私たちは、これまで以上に黒毛和種の生産増大に取り組む努力をしていきますので、皆様方にもさらに精進して頂きたいと思います。」と話され、肥育技術の更なる向上を目標としてあげられました。

なお、詳細なデータは当センターホームページ(<http://liaj.or.jp/ivf/>)に掲載しております。

横浜市では、平成13年度から「横浜生まれ横浜育ち」の和牛ブランド化を目指しています。卵通信第33号で特集しましたのでぜひご一読下さい。



主催者あいさつをする海老澤理事長

種雄牛別成績

種雄牛名	性別	頭数	月齢	生体重量(kg)	枝肉重量(kg)	ロース芯面積(cm ²)	ばらの厚さ(cm)	皮下脂肪の厚さ(cm)	BMS No.	枝肉単価(円)	枝肉金額(円)
安福165の9	去勢	31	29.3	758.4	503.8	62.8	8.9	2.3	6.6	2,062	1,039,588
	牝	8	29.5	646.6	431.0	60.4	8.2	2.1	6.5	1,897	818,108
	計	39	29.3	735.5	488.9	62.3	8.8	2.3	6.6	2,028	994,157
福栄	去勢	6	28.7	754.7	506.8	60.3	8.5	2.2	6.8	1,976	1,000,523
	牝	6	28.5	645.2	438.0	62.7	8.1	2.8	5.8	1,936	846,639
	計	12	28.6	699.9	472.4	61.5	8.3	2.5	6.3	1,956	923,581
美津照	去勢	2	29.5	725.0	481.5	52.5	8.5	2.8	5.5	1,793	859,440
美津福	去勢	1	30.0	718.0	482.0	73.0	8.2	2.9	6.0	2,005	966,410
紋次郎	去勢	1	27.0	753.0	510.0	55.0	8.3	2.5	4.0	1,775	905,250
北国7の8	牝	1	29.0	552.0	371.0	55.0	9.1	2.0	5.0	2,034	754,614
全体	去勢	41	29.1	755.1	502.8	62.0	8.8	2.3	6.5	2,027	1,020,022
	牝	15	29.1	639.7	429.8	60.9	8.2	2.4	6.1	1,922	825,288
	計	56	29.1	724.2	483.2	61.7	8.6	2.3	6.4	1,999	967,861

枝肉共励会が開催（上物率73%）



種雄牛 安福165の9
 性別 去勢
 月齢 31
 格付 A5
 枝肉重量 552kg
 ロース芯面積 76cm²
 BMS No. 11
 枝肉単価 3,004円
 枝肉金額 1,658,208円



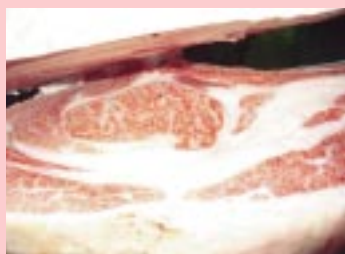
「初めての出品で予想外の受賞だった。共励会のために出荷しないでおいた牛。年内にも数頭仕上がるので、これからも出荷していきたい。」と受賞の喜びを語って下さいました。

今回受賞の「みなと一番牛の11」は、横浜市瀬谷区の相沢牧場で生まれ、同市内の(有)平本畜産に販売された牛でした。



種雄牛 安福165の9
 性別 去勢
 月齢 26
 格付 A5
 枝肉重量 486kg
 ロース芯面積 75cm²
 BMS No. 10
 枝肉単価 2,498円
 枝肉金額 1,214,028円

種雄牛 安福165の9
 性別 去勢
 月齢 27
 格付 A5
 枝肉重量 442kg
 ロース芯面積 76cm²
 BMS No. 10
 枝肉単価 2,400円
 枝肉金額 1,060,800円



「『安福165の9』は安定した実績のある牛。肥育している中で仕上がりの良さそうな牛を選んだだけ。偶然の受賞だ。」と謙遜されていました。



種雄牛 福栄
 性別 去勢
 月齢 28
 格付 A5
 枝肉重量 495kg
 ロース芯面積 64cm²
 BMS No. 9
 枝肉単価 2,221円
 枝肉金額 1,099,395円



「第1回研究会から出品し続け、あいち知多牛肉牛部会としては初の出品での受賞。非常に嬉しい。」とタイミングのよい受賞に喜びもひとしおの様子でした。



第8回 東京体外受精卵産子
枝肉共励会当日、梅雨の晴
れ間で明るく日差しを受け
る東京食肉市場。



岩手県葛巻町で 体外受精卵の本格的利用



平成18年6月1～2日、東北屈指の酪農地帯である岩手県葛巻町で、農協と酪農家が連携し、体外受精卵を利用した黒毛和種の子牛生産が本格的に始まりました。

葛巻町の酪農は長い歴史と伝統を誇り、酪農家戸数が現在213戸。町内で約11,000頭の乳用牛を飼養する、東北一の酪農地帯です。

乳価の引き下げや生産調整等、酪農情勢の厳しさが増す中で、平成16年に同管内で移植した性判別体外受精卵による産子が岩手県中央畜市場に約50日齢で出荷され、平均30万円前後で取り引きされたことが話題となっていました。

今回、新しいわて農協東部営農経済センター葛巻中央支所が町内最大の酪農地域に声をかけ、体外受精卵利用に関する説明会を開いたところ、移植を希望する生産者が多かったことから、今回の集中移植が計画されました。

移植を申し込んだ酪農家では、受卵牛となる乳牛の性周期をイージーブリードで同期化し、移植当日は技術者が2チームに分かれて手際よく行い、2日間で合計71頭に体外受精卵が移植されました。

さらに、6月23日には葛巻町内の別の地域でも27頭の移植が行われました。

今回移植を行った地域では、秋口にも再度集中移植を行うことが検討されています。牛群内の優良牛からは確実に後継牛を生産し、それ以外の雌牛には体外受精卵を移植して付加価値の高い黒毛和種を生産する体制が構築されていくことが期待されます。(KAKE)

編集後記

初夏のイベント、東京体外受精卵産子枝肉共励会の模様を今号で詳しく紹介いたしました。多くの出品者の皆様に支えられ、今回で8回目。出品者、頭数共に過去最多となり、最優秀賞は初出品の方が受賞されました。各地で体外受精卵の移植が増える中、肥育に携わる方々の裾野も広がっていることを実感させられる共励会でした。今後も、多くの方々に参加して頂けることを期待しております。